2026年11月11日

各　　位

会社名　　株式会社オールアバウト
代表者名　代表取締役社長　江幡 哲也
（コード番号 2454　東証スタンダード）
問合せ先　取締役　森田 恭弘
（TEL 03-6362-1300）

2027年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2026年5月13日に公表しました2027年3月期第2四半期（中間期）の連結業績予想と本日公表の実績に差異が発生しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、2027年3月期通期の連結業績予想につきましても下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

１．2027年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績との差異（2026年4月1日～2026年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり中間純利益
前回発表予想（A）	百万円 7,400	百万円 △130	百万円 △130	百万円 △400	円 銭 △28.46
実績（B）	7,118	△174	△168	△137	△9.77
増減額（B－A）	△281	△44	△38	262	
増減率（%）	△3.8	－	－	－	
（ご参考）前年同期実績 （2026年3月期中間期）	7,895	△23	△25	△61	△4.40

２．2027年3月期通期連結業績予想の修正（2026年4月1日～2027年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	15,600	20	10	△700	△49.80
今回修正予想（B）	14,200	△250	△250	△900	△63.64
増減額（B－A）	△1,400	△270	△260	△200	
増減率（%）	△9.0	－	－	－	
（ご参考）前期実績（2026年3月期）	15,464	△108	△110	△473	△33.66

３．差異及び修正の理由

当第 2 四半期（中間期）の連結業績につきましては、マーケティングソリューションセグメントが概ね計画どおりに推移したものの、コンシューマサービスセグメントにおいて、d ショッピングの集客減により売上高が計画を下回ったことから、連結売上高が予想を下回りました。営業損益及び経常損益につきましては、上記の減収に加え、前期にサンプル百貨店において生じた商品調達不足の課題は解消したものの、急激な在庫変動の影響により一時的に利益率が低下したことから、営業損失及び経常損失が予想より拡大することとなりました。

一方、親会社株主に帰属する中間純損益につきましては、コンシューマサービスセグメントにおける次世代システムへの移行時期の見直しにより、当中間期に見込んでいた固定資産除却損の計上が下期に後ろ倒しとなったことに加え、投資有価証券売却益及び関係会社株式売却益を特別利益に計上したことから、損失額は予想より縮小する結果となりました。

2027 年 3 月期通期業績予想につきましては、全世界で報告されているシステムなどの脆弱性に対する予防的なセキュリティ対策のため、サンプル百貨店アプリを一時停止することのほか、d ショッピングの集客減が続いていることなどから、前回予想を 1,400 百万円下回る 14,200 百万円の売上高を見込みます。

営業損益につきましては、下期からサンプル百貨店で在庫運用の安定化による利益率の改善を見込むものの、上記の減収の影響を補いきれず、250 百万円の損失を見込みます。親会社株主に帰属する当期純損益につきましては、2026 年 10 月 30 日に公表した投資有価証券売却益 157 百万円を第 3 四半期に計上する一方、コンシューマサービスセグメントにおける次世代システムのリリースに伴う現行システムの固定資産除却損を第 3 四半期から第 4 四半期にかけて計上する見込みであることなどから、900 百万円の損失を見込みます。

現在進めております次世代システムへの移行は、セキュリティリスクへの対応と共に、サービスレベルの向上や開発・業務効率化に貢献するものであり、今期中の全面リリースに向け注力しているところです。

なお、配当予想は現時点で未定であり、変更はありません。

（注） 上記の予想数値は発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な不確定要素により大きく異なる可能性があります。

以　上